

2023年度 事業計画

<団体本部の活動>

団体機能の整備

- ・ケニアNGOボードへの登録
- ・ケニアでの団体口座
- ・インターンの採用
- ・会計資料などの作成

広報活動

- ・座談会イベントの開催（随時開催）
 - 東京市民ボランティアセンターや、JICA パートナーのサイトに掲載
- ・事業紹介用動画の作成
- ・他、事業／団体紹介資料
- ・SNS開設
- ・クラウドファンディング

現地視察

- ・インターン、会員などから募集予定
 - ※渡航費用、滞在費用については団体負担、一部個人負担

<現地活動（ケニア共和国キスム郡コゴニ準区）>

母子保健講習会事業

- ・母子保健講習会を継続的に実施するとともに、拡大を目指す。

—概要—

キスム郡は世界的にも母子死亡率の高い地域となっている。その主な理由としては、病院の産婦人科設備などを含む社会インフラの問題と、妊娠や出産、育児などの過程で必要となる知識が浸透していないといった教育の問題が挙げられる。

※キスム郡の母子死亡率（2019年統計）

妊産婦死亡率：343人（10万人当たり）

新生児死亡率：39.1人（1,000人当たり）

幼児死亡率：63.1人（1,000人当たり）

STAND ALIVE では、このうち後者の教育の問題に対応するため、任意団体としての設立時より、保健衛生や栄養、病気、予防、発育、通院、妊娠中の行動などを含めた、

母子保健知識の啓発活動を行ってきた。

ケニア政府の地域保健政策のもとで行われている地域保健活動に従事する Community Health Volunteers (CHV) 約 20 名と協働して、18~19 カ村の各地域において母子保健講習会を毎週開催。2022 年度においての実績は前述（「2022 年度報告」に記載）の通りとなる。

2023 年度は、その活動をさらに促進するとともに、より多くの参加者を募り、地域の母子保健知識をさらに向上させていく予定である。

※年度内活動期間：2023 年 4 月～2024 年 3 月

※年度内活動予算：約 120 万円（自己資金、助成金）

メンタルヘルス事業

- ・精神保健の啓発を行い、地域における精神保健に関する人々の理解を深めるとともに、必要に応じて専門的なサービスにつなげられるようにすることで、母子を始めとする地域住民の身体および精神的な健康を守る。

—背景—

ケニアでは、男尊女卑の風習が色濃く残る地域がまだまだ多く、家庭内で立場の弱い女性が、配偶者や配偶者の家族から、不当な扱いを受け、身体的・精神的に追い詰められて鬱病になったり、最悪の場合、自ら命を絶ってしまったりするケースが見られ、健康および人権的な観点から深刻な問題となっている。

こうした問題は、新型コロナウイルス感染症の拡大や世界的な物価上昇による地域経済の悪化をもたらす住民達の生活苦に伴い、近年より深刻になってきている。

2022 年には、母子保健講習会の参加者の女性が、家庭内で精神的に追い詰められたことによって、自ら命を絶ってしまうという事態も発生している。

—活動内容—

STAND ALIVE では、上記問題への取り組みとして以下活動を実施する。

①CHV へのトレーニング

事業地域で CHV 約 40 名に精神保健に関する基本的な知識や、特別な支援を必要としている人の特定方法、専門的サービスへの付託方法などに関するトレーニングを実施。これにより、CHV たちが、日々の各家庭への訪問の中で、精神保健の啓発や、精神的

ケアが必要なケースを特定し、専門サービスでの受診を手伝うことができるようになる。また、一部の CHV たちは、STAND ALIVE が現在毎週約 20 カ所地域で女性住民を対象として行っている母子保健講習会にも関わっているため、母子保健講習会の一つのトピックとしても精神保健の基本的な知識について取り扱い、参加者の理解の促進を図ることができるようになる。

②住民たちへの講習会イベント

地域における精神保健に関する知識や理解の向上を目的とし、講習会、および、講習を受けた住民たち同士でのディスカッションを行うためのイベントを開催する。開催場所は事業地内の村 16 カ所で、参加者は各村の住民でそれぞれ 40～50 人程（計 640～800 人程）。講習会の講師として、行政から精神保健の専門家を招聘。講習会には女性だけでなく男性も参加し、男女それぞれが抱えやすいストレスや、男女が助けを求める際に直面する障壁の違いなどについての双方の理解も深められるように配慮する。

※年度内活動期間：2023 年 5 月～9 月

※年度内活動予算：1,114,084 円（助成金、自己資金）

※対象人数：約850 人

若年妊娠抑制事業

10 代における妊娠を抑制するための活動を行う。

—背景—

キスム郡では、10 代で妊娠出産をする女子が多く、2016 年から 2020 年までの 5 年間における現地保健省機関の記録では、キスム郡における妊娠のうち、25%以上が 10 代のものであったという事が分かっている。10 代で妊娠した子供たちは、知識もなく周囲に十分に相談もできないまま妊娠、出産、育児を行うケースが多く、ほとんどの場合、家族からも妊娠を隠すように言われるなど、十分なサポートを得ることができなくなってしまう。

学生が妊娠した場合、学校を退学せざるを得ないケースが一般的で、就学や将来の就労の機会を失う事にも繋がってしまう。また、若すぎる年齢での妊娠、出産は母子ともに命の危険が伴うリスクも高まることになる。

2020 年以降、新型コロナウイルスの影響で学校が閉鎖すると、若年妊娠のケースは急増し対応が必要な状況となっている。

—活動内容—

このような事態を受け、STAND ALIVE では、子供たちと対話形式を通じた講習会を開き、性や母子保健に関する正しい知識を広め、また若年妊娠を予防するにはどうしたらよいかを子供たちと一緒に考えるための活動を行う。

キスム郡のコゴニ準区において、地域保健行政と調整の上 16 村を選定し、それぞれの村で 10 代の男女 30 人程度を集め、講習会を実施する。講習会は 8 月と 12 月に各村で 1 回ずつ実施する。講習会の内容は、若年妊娠のリスクやデメリット、避妊方法やその大切さなどの啓発が主になり、集まった子供たちからの意見も聞きながら対話方式で行う。

また、参加した子供たちの中からメンバーを選抜し、引き続き各村での啓発活動を担っていけるようなグループを構成することを予定している。

- ※年度内活動期間：2023 年 8 月～12 月
- ※年度内活動予算：300,000 円（助成金、自己資金）
- ※対象人数：約 1,000 人

オリセットネット配布事業

公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）と協働し、キスム郡における蚊帳の配布を行う。

—概要—

キスム郡はヴィクトリア湖に面する亜熱帯地域であることから、蚊が非常に多く発生する地域である。そのため、マラリア感染率は非常に高く 19%を上回る（ケニア全体 6%）。マラリアは、キスムにおける 5 歳未満の死亡原因のうち 33%以上と、最も大きな割合を占める。

STAND ALIVE では 2023 年度、NICCO としてオリセットネットの配布を行う。枚数は 1,000 枚を予定し、ヴィクトリア湖に面するコゴニ準区の住民のうち、5 歳未満の子供を持つ家庭と、貧困家庭を主な対象者として配布する。配布場所は、地域の公立病院や母子保健講習会会場などを予定している。

- ※年度内活動期間：2023 年 5 月～12 月（※2024 年にまたがる可能性もあり）
- ※年度内活動予算：450,000 円（NICCO 資金、自己資金）
- ※対象人数：約 1,000 人

以上